

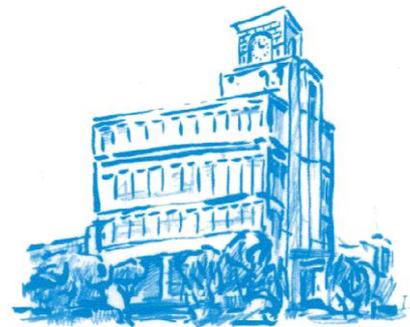
## 令和の日本型学校教育の実現

伊丹市立総合教育センター

所長 永嶺 香織

3回目の緊急事態宣言が発令されるなど、新型コロナウイルス感染症終息の兆しは一向に見えません。そのような中、令和3年度がスタートしました。

令和3年度、本市の教育を推進する上で大きな指針となるものが「新学習指導要領」と、令和3年1月26日に中央教育審議会から示された「令和の日本型学校教育の構築を目指して」と題する答申です。



答申は、新型コロナウイルス感染拡大に象徴されるように、先行き不透明な「予測困難な時代」の到来を見据え、「ICTの活用」や「新学習指導要領」の着実な実施を通じて、一人ひとりの児童生徒が、自分の良さや可能性を認識しながら、多様な人々と協働し、持続可能な社会の創り手となる能力を育むなど、今後の教育のめざす方向性を示しています。

「令和の日本型学校教育」の両輪は、「個別最適な学び」と「協働的な学び」です。「個別最適な学び」とは、個に応じた指導の充実やICTの積極的な活用などに加え、個々の家庭の経済状況に左右されない学びの事です。「協働的な学び」とは、探究的な学びや異なる考え方を組み合わせ、よりよい学びを生み出す学びの事です。

教師は、日々の教育推進において、このことを強く意識しておかなければなりません。従来の教師主導の学びから脱却することが重要です。答申の趣旨がわかっているにもかかわらず実践に移さなければ何ともなりません。「知っている」と「実践する」の間には深く大きな溝があります。

子どもたちの学びの成果は、教師の「情熱×考え方×能力」だと言われています。情熱とは、子どもの幸せを思う気持ちです。考え方とは、自分自身の教育理念（哲学）です。能力とは、子どもの心に学びの火をつけることです。そして、ポイントは、掛け算であるということです。考え方がゼロであれば、他の資質が高くても成果はゼロになってしまうのです。

# 「令和の日本型学校教育」

～全ての子供たちの可能性を引き出す、  
個別最適な学びと、協働的な学びの実現～

令和3年度がスタートしました。今回は中央教育審議会 答申から「令和の日本型学校教育」と、その姿とする「全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学び」及び「ICTの活用」についてお伝えします。

(令和3年1月26日 中央教育審議会 答申より)

## 急激に変化する時代の中で育むべき資質・能力

一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすること

2020年代を通じて実現すべき  
「令和の日本型教育の姿」

### 個別最適な学び

#### 【指導の個別化】

- 基礎的・基本的な知識・技能等を確実に習得させる
- 思考力・判断力・表現力等や、自ら学習を調整しながら粘り強く学習に取り組む態度等を育成する
- 支援が必要な子供により重点的な指導を行うことなど、効果的な指導を実現する
- 特性や学習進度等に応じ、指導方法・教材等の柔軟な提供・設定を行う

#### 【学習の個性化】

- 子供の興味・関心等に応じ、一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供する

一斉授業か個別学習か、どちらかを選ぶのではなく、教育の質の向上のために発達の段階や学習場面等により、**どちらの良さも適切に組み合わせ**て生かしていく

### 協働的な学び

- 探究的な学習や体験活動等を通じ、**子供同士で、あるいは多様な他者と協働**しながら、必要な資質・能力を育成していく
- 子供一人一人のよい点や可能性を生かすことで、**異なる考え方が組み合わせ**さり、よりよい学びを生み出していく
- 学校行事や児童・生徒会活動等を含め学校における様々な活動の中で異学年間の交流の機会を充実する



「令和の日本型教育」の  
構築に向けた今後の方向性

- 学校教育の質と多様性、包摂性を高め、教育の機会均等を実現
- 連携・分担による学校マネジメントを実現
- これまでの実践とICTとの最適な組合せを実現
- 履修主義と修得主義等の適切な組み合わせ
- 感染症や災害の発生等を乗り越えた学びの保証
- 社会構造の変化の中で、持続的で魅力ある学校教育を実現

これまでの実践とICTを  
最適に組み合わせること  
で、教育の質の向上につ  
なげていく

新たなICT環境や先端技術を効果的に活用

- 新学習指導要領の着実な実施
- 学びにおける時間・距離などの制約を取り払う
- 全ての子供たちの可能性を引き出す、個別に最適な学びや支援
- 可視化が難しかった学びの知見の共有やこれまでにない知見の生成
- 学校における働き方改革の推進
- 災害や感染症等の発生等による学校の臨時休業等の緊急時における教育活動の継続

### ICTの活用に関する基本的な考え方

○全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びを実現するためには、**学校教育の基盤的なツールとしてICTは必要不可欠なものである。ただし、その活用自体が目的ではない。**



今の子どもたちが生きる未来は…

- ・社会の在り方が劇的に変わる「Society5.0時代」の到来
- ・新型コロナウイルスの感染拡大など先行き不透明な「予測困難な時代」

# 授業力向上(カリキュラム)支援センター

授業力向上(カリキュラム)支援センター(通称:カリセン)では、「コンサルティング機能」「ワーキングスペースの提供」「コンテンツの提供」の3つの機能を通して、教職員の自主的・主体的な研究活動を支援しています。またアウトリーチ型支援として学校へ訪問しての指導・助言も行っています。

## コンサルティング機能でサポート!

- 経験豊富なコンサルタントが常駐し、教職員の様々な悩みに対応します。
- 授業づくりの支援を行います。

## アウトリーチ型支援でサポート!

- 経験豊かなコンサルタントが授業を観に行き、授業づくりや学級づくりについて個別の指導・助言を行います。

## ワーキングスペースの提供でサポート!

- 5階の部屋を自由に使えます。様々な人数、用途に対応できるスペースを用意しています。
- グループ活動や情報交換の場としても使えます。
- ICT機器の活用についても個別に相談に応じます。

## コンテンツの提供でサポート!

- 教育図書・雑誌が充実。貸し出しもできます。
- PC・電子黒板など、研修に必要な機器を貸し出します。
- プリンタ、コピー機なども使えます。
- 模造紙大まで印刷可能な大判カラープリンタ、一度に100枚までコピー可能なDVD複製機(CDも対応)があります。



大西 規之  
コンサルタント

3月まで中学校現場にいました。先生方には常々「授業の中で、生徒が真剣に聞く、粘り強く考えるという『静』の場面と、積極的に発言、発表、活動するという『動』の場面をつくりましょう」と話をしてきました。子どもが生き生きと目を輝かせ、「わかった」「できた」と思えるような授業を目指して、研鑽を積んでいきましょう。



後藤 猛虎  
コンサルタント

授業力を向上させるには、4つのことが大事です。1つめは、研修会に参加することです。2つめは、自ら教材を分析し、指導案を作り続けることです。3つめは、人に沢山授業を観てもらって、アドバイスを受けることです。4つめは、人の授業を観て、その授業者から話を聞くことです。支援センターの役割は、3つめです。一緒に質の高い授業をつくり出しましょう。

発行 伊丹市立総合教育センター  
所在地 〒664-0898 伊丹市千僧1丁目1番  
TEL 072-780-2480  
FAX 072-780-2482  
開館日 月・火・木・金 : 9:00~21:00  
水・土 : 9:00~17:00  
休館日 日曜・祝日、年末・年始  
総合教育センターHP <http://www.itami.ed.jp/>

<教育相談>  
電話 072-772-6171 (電話相談)  
072-780-2484 (来所相談)  
お子様に関する様々な悩みや課題、  
問題等の相談に応じています。  
(来所・電話相談)  
月・火・木・金 : 9:00~18:00  
水・土 : 9:00~17:00

こまったことがあったらすぐ相談

兵庫県教育委員会  
ひょうごっ子SNS悩み相談  
LINEを使って利用できます

